

慈眼

第25号

発行所
唐津市西十人町127
法蓮寺内

TEL 0955-72-2393
FAX 0955-74-4948

日蓮宗佐賀
教化センター

発行責任者
藤山英周

日蓮宗佐賀県青年会 終戦60年戦没者慰霊沖繩団参報告

私たち日蓮宗佐賀県青年会は平成十七年十一月十六日から十八日まで二泊三日の日程で、四八名の団員とともに団参を行いました。今年が終戦六十年であることから、沖繩の地で戦没者慰霊法要を目的とした沖繩団参を企画しました。

まず沖繩へ出発する前に福岡空港で結団式を行い、二泊三日の間何事もなく無事団参を終える事を誓い、同行する青年会員の紹介の後、福岡空港を飛び立ち、一路那覇空港へ出発しました。

最初にひめゆりの塔を訪れました。こゝは看護要員として沖繩県立第一高等学校と沖繩県師範学校女子部の教師と生徒二一九人により編成された「ひめゆり学徒隊」の慰霊塔であります。陸軍病院本部壕で献身的な看護活動に従事しておりましたが、直撃弾が落ち多数の犠牲者が出まし



た。助かったひめゆり学徒隊も荒崎海岸に追い詰められ、米軍の捕虜になる事恐れて手榴弾で自決したと伝えられています。私たちはここで戦争の恐ろしさ、歴史を目の当たりにしました。

続いて平和記念公園のホールで慰霊法要を行いました。鑿座の引鑿一打により、参加者全員の気持ちが一つになり、如来寿量品第十六をお唱えしながら、お一人お一人が御宝前に

献花を捧げていただいている姿を拝見しておりますと、沖繩の歴史の重さや、戦争と平和の問題、戦没者を偲ぶ心、そういうものが脳裏に浮かび、胸を打たれました。回向文のなかで『時の日本海軍司令官、僧籍にありし太田中将は、昭和天皇に対し、『沖繩県民かく戦えり。後世に於いて沖繩県民に対し格別のご高配を賜らん



ことを」との最後の電文を送り、玉碎さると聴く。」と唱えましたように、沖繩戦で犠牲になったという二十三万六千人の人々、犠牲にならずとも戦争経験者は多数おり、沖繩県民は戦争とのかわりがない人はいないと言うくらい、精神的にも肉体的にも傷を負っている。今回その傷をすこしでも癒して差し上げられたらという思いで法要に臨みました。今回の法要により、魂が慰められることを願ってやみません。

その後、沖繩の日蓮宗寺院である法華経寺で御開帳を受け、妙徳寺を参拝させていただきました。

二日目、三日目は、「沖繩美ら海水族館」「沖繩フルーツランド」「万座毛」「琉球村」「首里城・守礼門」など沖繩特有の大自然や風土を満喫し、充実した日程となりました。特に首里城は世界遺産として認定されており、中でも正殿は三層で城内最大規模の建物であり、琉球王国の王が政治や重要な年中行事を行う場所として使われていました。屋根の龍頭棟飾や龍の文様、朱を中心としたきらびやかな色彩は中国の影響を受け、構造形式や正面の屋根は日本の影響を受けているとされています。また守礼門は「守礼之邦」の額が掲げられている首里城の第二の坊門で、「守礼之邦」とは平和の民として沖繩を象徴しており、琉球国王の即位を認定する中国の使者を迎えるために創建されたといわれています。

以上、二泊三日の限られた時間でしたが、沖繩の歴史・自然・文化とふれあうことができ、団員一同何事もなく無事に帰ってこられたことに感謝致します。
日蓮宗佐賀県青年会

きょうのつづり

(かいつづり)

昨年十一月、高橋尚子選手が出場した東京国際女子マラソンが行われました。二年前のこの大会で二位となった彼女、それから二年間私たちに伝えられる情報は、何一つ高橋選手を後押しするものではありませんでした。二年前に止まった彼女自身の時間を進めるために敢えて難コース東京を選んで臨んだレース。二日前のふくらはぎ肉離れの会見を聞き、「いつ後退していくのか」「いつ止めてしまうのか」「どう云う思いで中継を見ずにはいられませんでした。ところが三五・七キロ地点、圧倒的な力の違いを見せつけるスパートで一気に抜け出し、文字通り風のようにゴールを駆け抜けました。『今、暗闇の中で悩んでいる人、夢をあきらめないで。夢を持つことで充実した日々を送ることが出来る。一日だけの目標でもいい。夢があれば必ず光はみえてくる。』二年間止まっていた時間を、自らの力で再び刻み始めさせた彼女のレース後の言葉は心に響いた。『菩提心をおこす人は多けれど、退せずして実の道に入る人は少なし』日蓮聖人、松野殿御返事にてのお言葉です。

【特集】 《六老僧》

日蓮聖人の直弟子である六人のお上人様の生涯をたどります。
今回は伊予阿闍梨日頂上人です。

伊予阿闍梨日頂上人

日頂上人は建長四年（一二五二）、駿河の国重須に生まれ、幼い頃に父を亡くされましたが、母である妙常尼が富木常忍（常修院日頂上人）と再婚されたので、その養子とされました。当時は天台宗であった真間山弘法寺で出家され、十五歳の時に富木氏の縁によって日蓮聖人の弟子とられました。また、弟の寂仙房日澄上人も出家され、日向・日興上人に師事されています。

日頂上人は日蓮聖人の佐渡流罪中も身延入山後も日蓮聖人に仕えられ、学問に精進され、日蓮聖人は日頂上人の資質を高く評価されておられました。

一方、富木氏は日蓮聖人の弟子として、

下総で千葉市の一族や家臣とともに日蓮聖人の教えを弘められ、弘安元年（一二八六）には天台宗の僧侶を論破して真間山弘法寺を我が宗に改宗せられ、日蓮聖人のご入滅の後には若宮に法華寺（現在の中山法華経寺）を建立され、教団の体制を整えておられました。

やがて日頂上人も弘法寺に入山されますが、永仁三年（一二九五）日蓮聖人の教えを一人でも多くの人に弘めるべく、筌谷（千葉県松戸市）に移られ布教活動を行うようになられます。しかし日常上人はこれを快くは思われず、両者の関係が悪化して、ついに日頂上人を勘当され、下総から追放してしまわれます。日常上人は永仁七年（一二九九）にお亡くなり

になられますが、日頂上人の勘当を許される事はありませんでした。

勘当の理由には、若宮の法華寺で日蓮聖人の三回忌法要が行われた時、日頂上人が宗論のため遅れられたという説をはじめ諸説がありますが、日頂上人が下総から疎外された理由は明確ではありません。

日頂上人は筌谷で、日常上人の菩提を弔われ、正安元年（一二三〇）、後事を弟子の日宣上人に託して、故郷の重須に退かれ、文保元年（一二二七）、六十六歳で亡くなられたと伝えられています。



弘法寺の祖師堂と伏姫桜

技術本位 **佐賀の老舗** 信用本位

辻の堂の仏だんや

(株)本庄仏具総本店

佐賀市堀川町(辻の堂) ● TEL 0952・23-2955(代)

花と葬儀 木下株式会社 平安閣冠婚葬祭互助会

OMEGA ALPHA SAAL 木下株式会社

草苑 (SOU-EN)

北佐賀草苑 佐賀市兵庫町藤ノ木1115 (0952) **30-4040**
FAX・30-4043

南佐賀草苑 佐賀市本庄町大字本庄951 (0952) **25-1255**
FAX・25-1088

寺院紹介

(二十二)

《石岡山 妙福寺》

佐賀市嘉瀬町荻野一八八



瀧上靖聰 住職

佐賀市の西端、嘉瀬町の「森林公園東」バス停のそばにあります。

〔由緒〕

妙福寺の開山日親上人は、永享五年（一四三三）九州肥前国小城郡松尾山光勝寺に九州総導師として赴き、死身弘法、ちまたに折伏の教線をはられました。特に三日月町三ヶ島では、大きな石を講座として百日間の説法を行われ布教を展開されました。日親上人は十二歳の時、この地に一寺を建て、肥前国における親師門流の「本寺」

と定め、「説法石」にちなんで山号を「石岡山」と称されました。これが現在の妙福寺のはじまりです。慶安元年（一六四八）に当山第十世日乘上人により、三ヶ島より現在地（嘉瀬町）に移されました。明治初年まで末寺九ヶ寺を数え京都本法寺の末寺とされてきました。



妙福寺全景

昭和十四年、本堂・日親堂・山門等を増改築し、また平成十三年には、立教開宗七五〇年の記念事業として庫裡を改築して現在に至っています。

寺宝としては、日親上人御真筆本尊（応仁第三戌子年一四六八）

と日親上人の御尊像などがあります。

〔千人塔〕

明治初年に旧藩時代から数百年続いた刑場が廃せられ、妙福寺はその刑場跡の管理をまかされたのであります。当山第十九世日仙上人は三夜続けて罪人の夢を見られたので、塔婆をたてて罪人の供養をされました。その後第二十三世日潮上人が現存する千人塔を建立されました。昭和四十年八月嘉瀬川改修工事のため千人塔は嘉瀬川の河畔（現在の森林公園）から妙福寺に移されました。



千人塔



仏壇・仏具・寺院用具・寺院納骨堂設計施工
拌む心で尊い品を

梅谷佛具店
TEL 092-271-0456

本店 〒812 福岡市博多区下川端町10-9
-0027 (地下鉄中洲川端駅下車)
7番出入口・博多座裏
支店 〒819 福岡市西区周船寺3-9-4
-0373

フリーダイヤル
☎ 0120-39-0456
TEL 092-806-7499

総合葬祭
葬祭会館

有限会社 黄雲閣
おうんくわん

小城市三日月町大字久米2134-1
代表 (0952) -73-3938
TEL (0952) -73-2020